

《開催概要》

1. 日時 2026年2月27日(金) 10:00~12:00
2. 開催方法 オンライン会議
3. 出席者 ※○印は座長【敬称略、五十音順】

《革新事業創造戦略会議 委員》

栗生万琴 株式会社LEO 代表取締役 CEO 武蔵野大学アントレプレナーシップ学部 教授

○内田 俊宏 学校法人梅村学園 常任理事 中京大学経済学部 客員教授

鬼頭 雅弘 名古屋大学学術研究・産学官連携推進本部 教授

佐橋 宏隆 STATION Ai 株式会社 代表取締役 CEO

白木 隆光 名古屋商工会議所 産業振興部長

平光 宏臣 一般社団法人中部経済連合会 イノベーション推進部長

古田 豊 愛知県経済産業局 革新事業創造部長

《議事次第》

1. 開会
2. 挨拶
3. 議題1 革新事業創造戦略の推進について（報告）
 - (1) 2025年度の振り返り
 - (2) 2026年度の取組について
4. 議題2 革新事業創造戦略の改定案について（協議）
 - (1) 戦略の改定について
 - (2) 自由討議
5. 議題3 その他（報告）
6. 閉会

1. 開会

(事務局)

ただいまから、2025年度第3回の革新事業創造戦略会議を開催いたします。本日、石川委員が体調不良ということでご欠席となりました。

なお、今回は革新事業の審査等はございませんので、広く一般に公開して開催といたします。本日、傍聴の方はおりませんが、発言録につきましては、後日県のWEBページに掲載しますので、ご承知おきください。

本日の会議の進行は、画面に表示のとおり報告が2件、協議が1件となっています。記載要領の第3条第2項の規定によりまして、この会議につきましては、座長であります中京大学の内田先生に進行をお願いいたします。

2. 挨拶

(内田座長)

それでは第3回の革新事業創造戦略会議を始めさせていただきます。県の方ではスタートアップ支援をしていこうということで、2本柱の1つとしてSTATION Ai、もう1つとして、A-IDEAという革新事業創造戦略を推進していく体制でございます。着実にプラットフォームの会員数、アイディアの登録数は伸びてはいます。ただ、知名度の向上や、社会実装に結び付ける成功事例を作る観点で、まだこれから進めていく必要があると思っています。今回も忌憚のない意見を委員の方にいただければと思います。

「議題2」の改定案をブラッシュアップするところがメインではありますが、その前に「議題1」の報告事項として、革新事業創造戦略の推進について、2025年度の振り返り及び2026年度の取組について事務局からご説明をお願いします。

3. 議題1

〈事務局説明〉

資料に基づき説明

【各委員発言】

(内田座長)

ただいま議題1の報告につきまして、質疑応答を始めたいと思います。ご質問等ある方は、挙手をお願いいたします。

(質問なし)

多くのイベントを実施いただいております、東京のイベントは12自治体、広域のイベントでも愛知県以外5県参加ということで、地道ではありますが、着実に進めていただいております。社会実装が世の中や消費者、住民に対して効果が大きいので、そこに繋げていくためのプロセスかと思います。

それでは続きまして、議題2に移りたいと思います。革新事業創造戦略の改定案について、事務局から説明をお願いいたします。

4. 議題 2

〈事務局説明〉

資料に基づき説明

【各委員発言】

(内田座長)

それでは議題 2 の討議に入ってまいりたいと思います。大まかには、戦略改定そのものに対するご意見・ご質問をいただき、議題 2 の討論の後半部分では戦略全般でどのような方向性が求められるのかという点について、ご発言いただきたいと思います。

それでは、ただいまの事務局の説明に対して、ご意見ある方は挙手にてご発言いただければと思います。全般的に A-IDEA セレクト・アドバンスと、今年度多くの議論を経て決めていただいています。実効性が高いものにブラッシュアップされていると思います。委員の方から見て、「この辺はこういう風にした方がよい」などのご意見があれば、頂戴できればと思います。

(佐橋委員)

社会実装にしっかりこだわっていく点は必要だと思いますし、素晴らしいと思った次第です。一方で、社会実装には時間が掛かるものも出てきます。いつまで伴走支援をするのでしょうか、特に期間は定めないのでしょうか。

(事務局)

アドバンスに認定した後、プロジェクトを進めていくプレイヤーは、元々の提案者とステークホルダーの方々など、計画作りの中で一緒にやっていたメンバーが中心となります。その中で、A-IDEA 事務局、コンシェルジュは伴走支援を行います。

プロジェクトがアドバンスに認定された後、計画としては「こういう風に進めていく」となっても、いきなりステークホルダーの方々と一緒に集まって、うまく推進できるかと言うと難しいです。そこで、最初はコンシェルジュがかなり積極的に伴走支援を行う必要があります。期間は最大の想定でも 1 年か 2 年かと思っています。

一方で、佐橋委員がおっしゃるとおり、社会実装に至るまでは時間を要します。その間は、プロジェクトの進捗に応じて専門家がアドバイスをする、必要に応じて情報発信をして地域の中で応援団を見つけていく、などの活動を進めて参ります。

支援の度合いは、最初の方がコンシェルジュ、進んでいくことによってより専門的な側面が強くなっていきます。

(佐橋委員)

あくまで最初の走り出しのところを、重点的に支援すると理解しました。

(鬼頭委員)

佐橋委員からも意見があった伴走支援について、誰がどういう支援をするかが重要です。人も限られる中、どう最適な支援をしていくかという点が気になっています。

セレクト・アドバンス2つの支援で変わってくるかと思いますが、具体的にどのような支援体制を検討しているか教えてください。

(事務局)

ポイントは、セレクトからアドバンスに至るところで、座組作りの際にステークホルダーの方々に応援団になってもらうことが大事だと思っています。計画段階から「こういう風に進めていきたい」とステークホルダーの方に関わっていただくと、走り出した際に、主体性を持って推進いただけるようになります。

セレクトからアドバンスの過程では、コンシェルジュが専門知識というより、人と人をつなぎ、各地域にプロジェクトをPRしたりと、泥臭い動きが必要になります。来年度設置するコンシェルジュが、セレクトで認定されたものをアドバンスに持っていけるところまで引き上げることが大事です。

(鬼頭委員)

コンシェルジュは、こういった形で調達をするのですか。

(事務局)

現在、来年度の委託事業を公募中です。委託の中でコンシェルジュとして、地域を巻き込む力がある方を募集しています。個人というより委託事業として、コンシェルジュも A-IDEA 事務局の運営も、トータルで枠組みを回せる人を委託事業で募集しています。

(鬼頭委員)

色んな分野もある。技術分野も対応いただけたところに、委託を出していただければと思います。

(事務局)

アドバンスのところで、コンシェルジュに加え、専門家の助言という話がありました。A-IDEA セレクトの段階でも、基本的にはコンシェルジュが対応しますが、必要に応じてスポットで専門家に相談に乗ってもらうような体制を築いていきたいと考えています。

(内田座長)

今鬼頭委員からもご指摘いただきましたけども、コンシェルジュに誰を選ぶのかというのが、フェーズ及び分野ごとに重要になりますので、検討いただければと思います。

(事務局)

セレクトしてからは、半年から1年半くらいを目安にコンシェルジュや、県職員が介入し、ものになるものはアドバンスとして認定していきます。今までのような革新事業の補助金は単年度で交付しますが、その後は金融などに受け渡し、行政の手を離れる絵姿を考えています。

なお、行政はスクラップが苦手です。特に社会課題解決系ということで、社会課題に対する思いはありますが、プロジェクトとして撤退戦略というのも考えなければなりません。撤退戦略について、委員の皆様には、現時点で何かご意見あれば伺いたいと思っています。

(内田座長)

ただいまの事務局からの説明に対して、何かアドバイスや、それ以外の改定に対する皆さんのご意見があればお伺いしたいです。

(平光委員)

社会実装のコンシェルジュという話もありました。撤退など含めて、企業の経験者も入っていただくとよいと考えます。特に経験値を積んだシニアが多くお見えになります。そういったところからも、拾っていくとよいと考えます。

(内田座長)

大企業の経験も踏まえた方も、コンシェルジュの選択肢に入ってきます。

(粟生委員)

私もスタートアップ及び事業会社の伴走を、たくさんやらせていただいている中の気づきですが、単にミーティングをして「こういう風にやるとよいですよ」とアドバイスをして、それが行動に移らず、事業が前進しないのが一番のボトルネックです。

例えば、「顧客にヒアリング行きましょう」と1か月間のKPIを設定しても、実際に達成されず、顧客の手触り感が無くなることがあります。スタートアップはそうでもないですが事業会社の皆さんについて、やる気はあるのですが、計画を立てて満足してしまうことが多いです。そのため、KPIの設定と進捗管理を事務局がしっかりやる必要があります。

伴走に関しても、シニアの方がアポイントを取って一緒に連れて行ってでも顧客の声を拾いに行くなど、具体的に一緒に動いてあげるのが重要だと考えます。製造業の皆さんは、営業機能を持っていないケースが多いので、顧客に直接ヒアリングをした経験がありません。アポイントをとってヒアリングをしたとしても、何を聞いていいのかわからず、自分たちのプロジェクトの話だけなど、的を射ない話をしてしまい、顧客にとってメリットが無いこともございます。そこを、例えば商社や金融出身のシニアの皆さんが、一緒に汗かいてやってくると、シニア活用の観点でもよいと考えます。そのあたりが、メンター選定の際には大事になってきます。アドバイスをしてくれる人は多いですが、それを行動に移すことが大事です。

事務局の皆様には、単なるミーティングのメンタリングではない、一緒に動けるメンターを選定してくださいということと、KPI含めたプロジェクト進捗管理をお願いしたいです。仮説検証や実装が遅れるケースは、計画通りっていないことが理由の一番です。事務局全体が応援、手出しをしていくようにしていただきたいです。

佐橋委員の発言のとおり、ソーシャルイノベーションは時間とお金が掛かり、難易度が高いです。その上にスケラブルではないと言われているので、スケラブルにするためには長くやるか、早くたくさん行動するしかありません。その点において、A-IDEAの事務局は一味違う、良くある伴走支援ではない形にしていきたいです。

私もたくさん伴走しているのですが、なぜこんなに新規事業を生み出せないのかと思うほどです。ある企業の新規事業は一緒にアポ取ったり、自らコンテンツ作って出演したりしているので、それくらいの活動が無いと新規事業は前に進まないと考えます。

(内田座長)

金融や商社の方など、分野ごとのシニアの方々は、栗生委員の意見どおりの役割は担えると思います。金融に繋ぐ際には、その方が所属していたところではなく、客観性を持たせるような仕組みが必要だと思います。

(白木委員)

まず一つ確認ですが、A-IDEA セレクト・アドバイスに認定する対象について、大手企業の事業部門で、新しい社会課題解決に向かうビジネスを始める部門も対象になるのでしょうか。

(事務局)

白木委員がおっしゃるとおり、対象になります。Aichi-Startup 戦略と、革新事業創造戦略の2本柱という話をさせていただきました。Aichi-Startup 戦略は、スタートアップを起爆剤としてイノベーションを起こしていこうということで、スタートアップに軸を置いて、オープンイノベーションなどを実施します。

一方で、革新事業創造戦略は、社会課題を解決していきます。社会課題の解決は、今までの施策の延長線上で、行政が対応していく形では、この世の中がシュリンクしていく中では対応が難しいと考えています。そこで、革新的なイノベーションを起こして、ビジネスとして解決することを目指すのが、革新事業創造戦略となります。

そのため、社会課題に対してイノベーションを起こしていく方針であれば、事業主体が大手企業でもスタートアップでも中小企業でも関係ない、というのが我々のスタンスでございます。

(白木委員)

大手が手を挙げた場合に、我々も一部伴走支援に近い形で対応していますが、会社の中で理解がなかなか進まずに頓挫したケースも経験しています。事業部門としては「こういう風に進めたい」と取り組まれますが、最終的に社内でストップがかかるケースがあります。

コンシェルジュの方には、そのあたりのケアも必要になります。大手特有かもしれませんが、そのあたりも留意して進めていただけるとよいかと思います。

コンシェルジュは最長2年、大体1年という話もありました。来年度のコンシェルジュから、その次年度のコンシェルジュで人員が変わってしまうと、支援の連続性が途絶えてしまいます。そこはご留意された方がよいかと思います。

(事務局)

行政も単年度の契約なので難しいところです。なるべく事業者、相談する人が変わることは防げるよう努力をしたいです。大手企業の新規事業の部門から、相談を受ける機会があります。行政としてもフィールドを繋ぐことや、規制には詳しい人材がいます。そういった人

材がコンシェルジュと協力しながら、大手企業の新規事業の部門の支援を進めていきたいと考えます。

(粟生委員)

白木委員のお話の補足ですが、新規事業やイノベーションの部門の方が、A-IDEAで応募して社内を進めていると、トップの理解が得られず急に予算を切られたり、中断されたりというケースが多いです。A-IDEA アドバンスに入った事業会社のトップの方に、局長や愛知県の部長などリーダー同士が接触することが大事です。リーダーが納得しないと新規事業は進みません。リーダーの後押しなどは、愛知県にお願いしたいです。

内田座長もおっしゃっていたとおり、従来の業界ごとの認知やバイアスがあります。そのバイアスを崩すことを、各民間が言うと公平性が担保されません。このソーシャルイノベーションモデル実現するに至って、規制緩和に加えて業界全体の理解と革新が必要であるという啓蒙活動が必要になります。そこで、愛知県が広義な意味で「イノベーションを起こしましょう」ということを、トップリーダーへ説得いただきたいです。

事例として、A-IDEAの革新事業に採択されている製造業の企業で社会イノベーションをやっている方々が、競合他社と組んだ方がよいというケースがありました。業界の習わしとして、競合にヒアリングに行くことは許されない、というバイアスがかかっていました。そこを私がお繋ぎさせていただきまして、競合他社ですが、ソーシャルイノベーションを起こすためには繋がった方がよいという話になりました。規制緩和に加えて、通常概念を壊す意味合いでは、行政の皆さんのお力添えと、お口添えが民間にとって必要です。

(事務局)

セレクトで半年～1年半、アドバンスで半年～1年ということで、個々の事業者とこの仕組みにすることで長いお付き合いができます。その中で、企業のマネジメント層まで話ができればと思います。

(粟生委員)

2・3年で異動しないように、この部署だけ5年異動などにしていきたいです。

(内田座長)

社会実装に向けた有望な案件については、トップダウンでの継続なども検討していただけるとよいと思います。事務局の方で石川委員の方にもヒアリング、インタビューをしていただければと思います。戦略改定についての意見はよろしいでしょうか。

(佐橋委員)

粟生委員がおっしゃっていた伴走支援の課題感、実際動いてくれない、ということは私もずっと感じています。いくつかの企業の新規事業提案する際に、ご提案して実装してもらってそれなりにワークしていると思うのが、フェーズ3以降のところ、ステージゲートを設けることは一つやり方としてよいです。

最初のステージでは「こういうことを目的に、ここまで突破しましょう」「次のステージはこれで」とステージゲートを設けて、ここまでクリアしたら予算が追加でいくら出るというやり方をしていました。

補助金もアーンアウト方式のように、何処まで到達したらいくら出る、とできればよいですが、難しいかと思います。ステージゲート方式にすると、何をやらないといけないかも合わせて、ある種強いられる部分も出てきます。一つの案としてよいのではないかと思います。

(内田座長)

愛知県は、クローズドでやってきた地域です。そういった地域にとっては、大企業中心にいきなりオープンイノベーションは、ハードルが高いです。そこで、段階的にアプローチができればよいかと思います。

戦略改定そのものに関するご意見は、これ位かと思います。今年の4月に戦略を策定させていただき予定になっています。今日いただきました意見の対応につきましては、座長と事務局にご一任いただきたいと思います。

改定案そのものに対するご意見以外に、戦略全般で今後どのような展開を期待しているか意見を幅広く頂戴したいと思います。

先ほど振り返りのパートで、県内12自治体と、北陸を含む5県など、広域での連携がありました。観光や健康長寿や特に観光については、広域でのイノベーションは重要と考えています。最近、大阪が万博以降、IR推進含めて勢いを増しています。愛知県プラス周辺を巻き込むような分野でのイノベーション推進があってもよいと感じています。

(鬼頭委員)

今回は戦略改定を通じて、重要なのはワンストップ受付という部分です。愛知県では、補助金事業以外にも重点研究プロジェクトや新あいち創造研究開発補助金など、色んな補助金事業や支援事業をやられています。そこで、A-IDEA事務局・ポータルを通じて相談に来られたスタートアップや中小企業が、ステージ・スピード感・どういった位置づけにあるか、

を考えた上で、こういった支援事業が適切かというのを判断いただけるとよいかと考えます。

また、シーズ企業への繋ぎを相談に乗っていただき、ネットワークのハブとなるような機能を持っていただければ、「愛知県に来ると適切な支援が受けられる」となり、他県からも愛知県に来ていただけることに繋がると思います。A-IDEA 事務局・ポータル の充実・機能強化をお願いしたいと思います。

(事務局)

鬼頭委員のおっしゃるとおりです。A-IDEA 事務局・コンシェルジュを置くと、どんなことも対応できるのかということ、そうではありません。「社会課題解決をビジネスに」という文脈が核になります。

相談に来た案件が、県庁の NPO と関わりがある部署に繋いだ方がよい、県だけでなく色んな自治体が補助金をやっているのそこに繋いだ方がよいなど、適切な箇所に繋げるのもコンシェルジュとして大事な役割だと思っています。

その中で、A-IDEA 事務局等が支援することで社会課題解決に繋がるなというものは、我々がリソースを割いて対応していきます。

(内田座長)

3/18 にサイトのリニューアルも予定されています。

(事務局)

A-IDEA ポータルということで、入口としての機能を出していきたいです。今まで3年間やって会員 850 人ということに対して色んな評価がありますが、土壌づくりのフェーズ 0 をやっていくにおいては物足りないと思っています。

そこで、もう少しライトに、A-IDEA ポータル入口できてもらい、コンシェルジュも色んなところに出て行って、A-IDEA に関わりを増やす世界観が築けたらよいと思っています。そこで、プラットフォームを見直していきます。

今年度、リアルの窓口を置いたことで、この話は A-IDEA 事務局ではないか、という案件が結構生まれていました。我々も県庁の中で動いておまして、NPO・ヘルスケア関連部署に話を持って行っています。来年度はコンシェルジュの立場の人も入ってくることで、県庁の中でできることを増やしていき、行政としても価値提供ができればよいと思っています。

(内田座長)

県庁の窓口は、「何処に行けばよいか分からない」ということがあります。色んな意味で幅広く活用されるのかなと思います。

(佐橋委員)

粟生委員からもコメントが出ていますが、事前の打ち合わせの中で、今回は特に注力する分野は明示されないということを伺っています。それでよいテーマが挙がってくるかは、懐疑的に見えています。どういった分野を特に求めるのかをしっかりと伝えることで「自分が応募すべきものだな」と気づいてもらうことが大事だと思います。

STATION Ai としても、フィジカル AI の分野と、3年ほど前からアメリカで合言葉になっている NCNT (Non-China, Non-Taiwan) を気にしています。脱中国依存をどうやっていくかということは、まさに製造業の集積地である愛知において極めて重要で、なるべく国内におけるサプライチェーンを構築できるかが大事です。そういったテーマを、明確に打ち出していくことが、大事なのではないかと思います。

(事務局)

まず戦略としては、プレイヤーの社会課題をしっかりと見定めて、「何が課題か」という本質的な課題にあたることに重点を置きます。分野を定めるというより、本質的な課題を見定め、それを社会実装まで持って行くことを進めて参ります。そのため、戦略のところで分野を絞るのは難しいと思っています。

一方で、現在でも5つのイノベーションプロジェクトとして、農業・環境・デジタルヘルスなど、県として重点を置きたいものは個別でプロジェクトを立ち上げて、それぞれの課題解決に取り組んでいます。今後も5つのプロジェクトは継続すると共に、愛知県の中で社会課題解決の文脈でこの分野も注力したいとなったら、プロジェクトを立てていくことは当然考えられるのかと考えております。

5つのイノベーションプロジェクトの中でも、環境・農業は手厚い座組ができています。他にもスポーツや材料は新あいちの補助金など、手厚い部分そうでない部分が既に存在しています。事業者とのコミュニケーションの中で、「ここは注力した方がよい」というのを手厚く支援していきます。

募集時にテーマは絞らなくとも、未来トレンド予測的なメッセージを出すやり方もあります。募集ごとに分野を絞った募集があってもよいかと思っています。

我々、A-IDEA TRIGGER というイベントをやってきました。イノベーション全般でイベント打ってもなかなか人が集まらない状況になってきました。我々としても、何か尖ったと

ころを情報発信していく中で、「面白いことが始まったな」と思ってもらえるような打ち出し方は考えたいと思います。

(内田座長)

今回は幅広に構えるために戦略から外すということで、口頭ベースで色んなところで説明する際には、具体的な分野も出していただければと思います。

NTは製造拠点であれば影響は薄いかもしれませんが、NCはリスクがあります。

「愛知から始まる社会実装の挑戦」というメッセージが資料にありました。模範解答という印象を受けました。インプリメントイン愛知などキャッチーな表現にして、サブタイトルとして「愛知から始まる社会実装の挑戦」という形でもよいかも知れません。インプリメントって何だろう、と言う感じで注目してもらおう手法もあるかと思います。

(事務局)

このメッセージはまだ検討中です。もしよい知恵があれば、いただけたらと思います。

(内田座長)

言いたいことはこの内容かと思います。ただ、一度聞いても頭に残らない表現と感じました。

その他、戦略改定全般についてよろしいでしょうか。

(粟生委員)

今回全て日本語なので、ハッシュタグを設定する際に困ってしまいます。「Social Innovation」という表現がよいかと思います。

(古田委員)

本日は色々な意見いただきありがとうございました。私からも2点ほどお話をさせていただきます。1つはA-IDEA事務局についてです。A-IDEA事務局は昨年の4月に設置をしましてもう間もなく1年が経とうとしています。1月末で423件の相談がきております。週2回開いておりますので、1日あたり5件ほど相談を受けています。5つのプロジェクトの連携含めて、A-IDEA事務局をSTATION Aiに配置したことは一定の成果があったと思っています。来年度はコンシェルジュで更に強化をしていきます。特に、コンシェルジュが受け身ではいけませんので、積極的に外に発信していくこともしっかり取り組んでいきたいと思っています。佐橋委員へのお願いとして、STATION Aiの最前線で働いておりますコミュ

ニティーマネージャーとも連携を取って、コンシェルジュ機能するようしていきたいと思っています。

2点目が戦略について、行政ではこういった戦略は5年ほど維持するのが普通です。今回は3年で改定したのは、1つはSTATION Aiができたということ、もう1つは3年間取り組みを続ける中で、実証から実装にもっていくところのハードルが高いということで、その仕掛け作りをもう一度見直したいということを出発点としています。そこで今回、セレクト・アドバンスの2段階で伴走支援をしていく仕組みを取り入れています。上手く機能していくかどうかは、トライ＆エラーで試行錯誤をしながら、よい仕組みを作っていきたいと思っています。

「社会課題をビジネスで解決していく」というのは自治体としても大きなテーマです。所管組織等の観点だと、狭間の領域になっています。そこで愛知県では、イノベーション企画課を作って取り組んでいくということでございますので、他県の模範になるような「愛知モデル」をしっかり作っていきたいと思っております。委員の皆様方にはご協力をお願いしたいと思います。

(内田委員)

熱心なご議論、ありがとうございました。それでは次の議題へ移りたいと思います。

5. 議題3

(内田座長)

次に、議題3『その他』に関して、事務局から説明をお願いします。

〈事務局説明〉

資料に基づき説明

6. 閉会

(事務局)

内田座長ありがとうございました。委員の皆様、本日は熱心にご議論いただき、誠にありがとうございました。次回2026年度第1回目の戦略会議は6月頃を予定しております。

以上をもちまして、2025年度第3回の革新事業創造戦略会議を終了いたします。本日は、ありがとうございました。